

各 位

会 社 名 インターライフホールディングス株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 及川 民司  
 (JASDAQ・コード1418)  
 問 合 せ 先 役職・氏名 広報・IR室長 川島 仁  
 電 話 03-3547-3227

## 特別損失の計上および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2018年2月期の決算において、下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりました。

これに伴い、最近の業績動向も踏まえ2018年1月12日に公表した2018年2月期の通期連結業績予想および通期個別業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の計上について

当社の連結子会社である株式会社ジーエスケー（以下、ジーエスケー）につきましては、同社を取り巻く事業環境の変化ならびに収益改善に向けた取り組みの遅れなどにより、同社業績は計画を下回って推移いたしました。これに伴い、同社に係るのれんについて減損の兆候ありと認め、回収可能性を慎重に検討いたしました結果、その一部291百万円を特別損失（のれん等の減損損失）として計上いたしました。

また、これに伴い当社単体決算においても、当社が保有するジーエスケー株式の関係会社株式評価損890百万円を特別損失として計上いたしました。なお、当該評価損は、連結決算上は消去されるため、連結業績への影響はありません。

#### 2. 2018年2月期通期連結業績予想の修正（2017年3月1日～2018年2月28日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	21,000	250	195	120	6.15
今回修正予想 (B)	20,737	114	63	△231	△11.90
増減額 (B-A)	△262	△135	△131	△351	
増 減 率	△1.2%	△54.1%	△67.4%	—	
(ご参考) 前期実績 (2017年2月期)	19,082	257	222	72	3.71

※1株当たり当期純利益の算定上の基礎となる普通株式の期中平均株式数については、株式給付信託導入に伴い資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）が所有する当社株式を控除対象の自己株式に含めております。

### 3. 2018年2月期通期個別業績予想の修正（2017年3月1日～2018年2月28日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,143	43	114	5.84
今回修正予想（B）	2,424	253	△527	△27.19
増減額（B－A）	281	210	△641	
増減率	13.1%	488.7%	—	
（ご参考）前期実績 （2017年2月期）	1,712	717	762	39.10

### 4. 修正の理由

#### ①2018年2月期通期連結業績予想

当社グループは、中期経営計画「質で選ばれるインターライフブランドの構築」の最終年度の方針として、次期中期経営計画で飛躍するための体制強化とグループシナジー促進の実現を目指してまいりました。しかしながら、ジーエスケーが担う製造業向け人材派遣・請負事業においては、業務量の伸び悩みや受注競争の激化、また人員確保の制約から受注が伸びず、計画を下回る推移となりました。この結果、同社に係るのれんの回収可能性を慎重に検討いたしました結果、前述のとおり減損損失を計上いたしました。

また、遊技業界を主要取引先とする子会社ファンライフ・デザイン株式会社（以下、ファンライフ・デザイン）においても、同業界における規制強化の影響を受け、予定していた店舗改装工事等の中止や延期が増加したことによる売上高の減少、受注活動に係る販売管理費を始めとする営業コストの低減ができなかったこと、更に需要低下に伴い競争条件も悪化したことなどにより、計画を大きく下回ることになりました。一方で、工事業における主要子会社である株式会社日商インターライフおよび株式会社システムエンジニアリングにおいては、順調に案件を獲得、利益率の改善も期初計画を上回る水準で進み、堅調に推移いたしました。全体の業績を補うには至らず、2018年2月期通期連結業績予想を上記のとおり修正いたしました。

#### ②2018年2月期通期個別業績予想

当社が行う不動産事業において販売用不動産の売却が寄与し、子会社からの配当収入も堅調だったことから、売上高および経常利益は予想を上回る推移となりましたが、当社が保有するジーエスケー株式について、関係会社株式評価損 890 百万円を特別損失として計上したこともあり、2018年2月期通期個別業績予想を上記のとおり修正いたしました。

### 5. 今後の取り組みについて

ジーエスケーおよびファンライフ・デザインの業績回復をグループ全体の最重要課題に据えて、グループシナジーを更に発揮させて対処してまいります。

更に当社グループは、2019年2月期を初年度とする中期経営計画（2019年2月期～2021年2月期）を策定し、「ステークホルダーの価値の最大化に向けた体制づくり」、「成長分野の育成、環境の変化に即応する柔軟な組織体制の構築」、「人材育成・意識改革・働き方（がい）改革の推進」を3つの重点施策として掲げ、前中期経営計画から革新と進化を促し、グループの成長を実現してまいります。

### 6. 配当予想について

期末配当予想については、安定的な配当を行う基本方針に変更はなく、期末配当につきましては、2018年1月12日に公表した1株当たり4円から変更はございません。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上